

農産物直売所には、農家が作りたい野菜が並ぶ。
私は新顔野菜の栽培を目指しています。

加藤 真一さん

池田市豊島南の農地で
新顔野菜を栽培している
加藤真一さんをご紹介します。

農家が作りたい野菜が並ぶ 農産物直売所の魅力

農家が作りたい野菜が並ぶ 農産物直売所の魅力

「直売所の魅力って何だろう
この質問には新鮮、安全、安心な
野菜が並ぶ事、価格が安い事、生
産者の顔が見えるなど、人それ
ぞの考えはあると思います。

加藤さんはこの質問に対し、
「なんじゃこりやと言う珍しい野
菜に出会えるのも魅力の1つ。」

と考えておられます。旅行好き
な加藤さんは、旅行に行く際は
その土地の直売所や道の駅に立
ち寄ります。そこで印象は郊
外にある直売所は全体的に価格
が意外に高く、それから地域特
有の野菜があるということ。そ
れは、旅行感覚で来る人が多い
とか、スーパーが遠いなどの様々
な理由はあると思います。ただ、

箕面市にある農産物直売所の
近郊にはスーパーがあるので、わ
ざわざ直売所に行かなくても野
菜が近くで販売されています。
スーパーと農産物直売所の違い
は農家が主になっていることです。
農産物直売所には農家の作りた
い自慢の野菜が並ぶ。だからこ
そ、珍しい野菜も多い。スーパー

みたいに売れ筋だけを販売す
るのではなく、農家が作りたい珍
しい野菜も並ぶのが魅力の一つ
だと思いますので、自分が作り
たいと思った野菜を作っている
ことです。

珍しい野菜を売るために

多くの人が栽培している野菜
はどうしても旬で大量に収穫
出来る時期には価格競争などが
おこってしまう。だからこそ、他
の人が作っていない物を作りたい
と思い、珍しい野菜を含め、少量
多品種の栽培を心掛けていると
のこと。その為、常にアンテナを
張り、テレビやインターネットで
日々情報収集を行うほか、知り
合いに教えてもらうこともあります。
そうです。

これまでに、皮が薄く甘みが
あり水分が多く、焼くとトロト
ロになる「天狗ナス」や、アスパラ
ガスのような食感と、高菜のピリ
辛さ・ほろ苦さが特徴的な「祝
薔」、サラダ蕪の一種で皮が
むける赤色の蕪「もものすけ」、
加工用のトマト「シリアルル
ジュ」などを栽培されています。





ヤマノイモ
ナガイモより粘りが強いです。擦ってからお出汁で割って食べるととてもおいしい品種です。



ラディッシュ



カリフラワー



パクチー



バジル

もちろん珍しい野菜を作る上で、風土や気候に合わせず、失敗する事もあります。
珍しい野菜を栽培する上で大きなことは、どのような野菜なのか、どのように食べるのかをお伝えしないと手に取ってもらえないで、より一層の販売努力が必要です。その為、自ら野菜のラベルを作り、調理し、時には、農産物直売所のスタッフにも食べてもらって感想を聞いたり、価格のアドバイスを受けたりします。加藤さんはこういった、農産物直売所のバックアップが嬉しいと語ってくれました。

自分が農業をすると 思つていなかつたが 退職を機に農業に本腰を

12年前に親から農地を受け継ぎ、野菜作りを始めた加藤さん。それ以前は、自分で農業をするとは思つていなかつたそうで、人手が必要な作業がある時に手伝うくらいでした。農地を受け継いでからは、週末の家庭菜園程度で農業をされていましたが、今から約2年半前の退職を機に農業に本腰を入れて農産物直売所に出荷するようになりました。JA大阪北部の営農課でも仕事をされていたので、農業に対する知識はありましたが、自分で農業をしようとするとき、自分で農業を作つていただけます。

「少人数家族向けの『食べれるサイズを!』とミニトウガン、ミニハクサイ、ミニカボチャなど小ぶりな野菜の栽培も心掛け、消費者に喜んでいただき、自分が作った野菜を買いに来たと言うファンがたくさんついてくれるような野菜を作りたい。」と語る加藤さん。これからも珍しくて美味しい野菜を作つていただきたいです。

もちろん珍しい野菜を作る上で、風土や気候に合わせず、失敗する事もあります。
珍しい野菜を栽培する上で大きなことは、どのような野菜なのか、どのように食べるのかをお伝えしないと手に取ってもらえないで、より一層の販売努力が必要です。その為、自ら野菜のラベルを作り、調理し、時には、農産物直売所のスタッフにも食べてもらって感想を聞いたり、価格のアドバイスを受けたりします。加藤さんはこういった、農産物直売所のバックアップが嬉しいと語ってくれました。

の知識は全然違うことが…もちろん気候なども変わってきているとか様々な事情はあります。その年その年で全然違います。その為、退職をしてから、農業講座を受講したり、日々努力されています。

好きでやっているから、 苦労は感じない。

「私は、農業を好きでやっていますので、苦労とは思いませんが、やはり台風等自然災害に遭うと辛いです。毎晩9時には寝て朝4時頃に起き、うちの畑の野菜をおかげで朝食を済ませて畑に行くのが習慣です。」と、とてもお元気な加藤さんですが、今まで夏の暑さで、2回ほど熱中症になりかけたそう。今年は、弟さんがファン付きジャンパーをプレゼントしてくれたので、夏の作業の必需品になつたそうです。

これからの中標

19 HokuHoku December